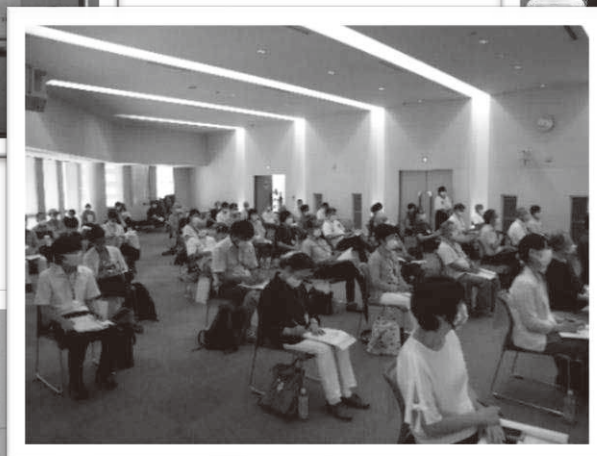


第 10 期阪神南地域ビジョン委員会総会

令和 2 年度

第 1 回総会

- 1 日 時 令和 2 年 8 月 29 日（土） 13:30～16:30
- 2 場 所 尼崎商工会議所 7 階 701 会議室（尼崎市昭和通 3 丁目 96）
- 3 内 容
- 第一部：紹介・ビジョン委員自己紹介
- （1）県民センター長あいさつ
 - （2）来賓及び専門委員等紹介
 - （3）専門委員から「第10期委員へ期待の言葉」
 - （4）ビジョン委員自己紹介
- 第二部：ビジョン委員研修会
- （5）「兵庫から新たな未来を創る－新ビジョン策定について」
兵庫県副知事 金澤 和夫（又はビジョン課職員）
 - （6）『阪神市民文化社会ビジョン』とビジョン委員の役割
専門委員（近畿大学総合社会学部教授）
久 隆浩 氏
- 第三部：委員長選出・オリエンテーション
- （7）委員長選出
 - （8）ビジョン委員の活動について



第2回総会

- 1 日時 令和2年11月28日（土） 13:00～15:30
- 2 場所 西宮市大学交流センター大講義室
（西宮市北口町1-2 ACTA西宮東館6階）
- 3 内容
- (1) 開会 司会：藤村明沙佳（ゆとろぎグループ）
委員長あいさつ
県民センター長あいさつ
 - (2) 副委員長指名
 - (3) 各グループによる活動計画の発表・質疑
【行動目標1】 グローカル・ダイバーシティグループ
ゆとろぎグループ
【行動目標2】 まちむすびグループ
【行動目標3】 緑豊かな安全なまちづくりグループ
【行動目標4】 三市物語グループ
 - (4) 専門委員・アドバイザー・オブザーバーによる講評
 - (5) オリエンテーション
・今後の予定
・グループからの提出物について
 - (6) ショート合同グループ会議 with 専門委員



令和3年度

第3回総会

- 1 日時 令和3年4月24日（土） 13:30～15:30
- 2 場所 尼崎商工会議所 701会議室及び、オンライン（Zoom）
（新型コロナウイルス拡大に伴い、リアル開催からオンラインメインの開催に変更）
- 3 内容 (1) 開会 司会：大西瑠佳（三市物語グループ）
委員長あいさつ
阪神南県民センター長あいさつ
(2) 各グループによる活動発表（昨年度実績・今年度計画・質疑応答）
 - 【行動目標1】 グローカル・ダイバーシティグループ
ゆとろぎグループ
 - 【行動目標2】 まちむすびグループ
 - 【行動目標3】 緑豊かな安全なまちづくりグループ
 - 【行動目標4】 三市物語グループ
(3) 専門委員等による助言



第4回総会

- 1 日時 令和4年2月13日（日） 13:30～15:00
- 2 場所 兵庫県尼崎総合庁舎別館2階大会議室及び、オンライン（Zoom）
（西宮神社会館でのリアル開催の予定から新型コロナウイルス拡大のためオンラインメインの開催に変更）
- 3 内容
- (1) 開会 司会：植草結樹（まちむすびグループ）
 - ・委員長あいさつ
 - ・専門委員紹介
 - ・アドバイザー、オブザーバー紹介
 - (2) 各グループ令和3年度活動状況報告（発表順）
 - 【行動目標1】 グローカル・ダイバーシティグループ
ゆとろぎグループ
 - 【行動目標2】 まちむすびグループ
 - 【行動目標3】 緑豊かな安全なまちづくりグループ
 - 【行動目標4】 三市物語グループ
 - (3) 専門委員、アドバイザー、オブザーバーからのコメント
 - (4) センター長あいさつ



新地域ビジョン策定への参画

阪神地域夢会議

新しい地域ビジョンをつくるため、幅広い住民と意見を交換する「未来フォーラム」として開催。グループ討議の内容は大学生委員を中心としたプロジェクトチームが企画し、ビジョン委員のみのリハーサルを重ね、当日の司会やグループ毎の討議進行もビジョン委員が務めた。

また、コロナ下での開催となったため、オンライン参加者と会場での参加者が同時に会議に参加し、それぞれでグループワークも実施する、いわゆる「ハイブリッド開催」にチャレンジした。

1 日 時 令和3年8月1日（日） 13:30～16:30

2 場 所 オンライン（Zoom）、リードあしやC、D会議室（芦屋市公光町5-8）

3 出席者 121人（オンライン参加71人、会場参加50人）

阪神南ビジョン委員26人、阪神北ビジョン委員14人
専門委員等4人、高校生36人（阪神南26人、阪神北10人）、教員（引率及び視察）3人、一般参加者19人、本庁1人、来賓3人、
阪神南県民センター9人 阪神北県民局6人

4 内 容

参加者が阪神地域（尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）の2050年を展望する、新しい地域ビジョンをつくるため、「将来こうなったらいいな」という地域の姿と各自のベストアクションを、4つのテーマごとにオンラインで14班、会場で4班の計18班に分かれて、グループ討議を行った。

各班の2050年の未来を描いた未来像及び各自のベストアクションを作成。班ごとに発表し、ベストアクションを掲示。

発表及び専門委員の講評の内容は以下のとおり。

(1) 開会のあいさつ 阪神南地域ビジョン委員長 佐久間壮仁

2050年の展望というのは難しいのですが、皆さんの意見をなるべく多く県の方に届けたいと思っています。自分たちの意見、自分たちは何ができるのかを伝えていただきたいと思います。

(2) 来賓・専門委員・主催者・グループワーク進行者の紹介（敬称略）

来 賓： 兵庫県議会議員 黒川 治、徳安 淳子、北川 泰寿

専門委員： 東 朋子、小西 巧治、久 隆浩、三宅 正弘

主催者代表： 阪神南県民センター長 正垣 修志

共催者代表： 阪神北県民局長 坂本 哲也

グループワーク進行総括： NPO 法人 Co. to. hana 丸毛 幸太郎

(3) 新全県ビジョン検討状況 説明ビデオ

(4) 阪神地域の新しいビジョンの検討状況 説明ビデオ

(5) 各班のグループワーク発表

<オンライン参加>

① 1班【テーマ：住みたい、訪れたいまち】

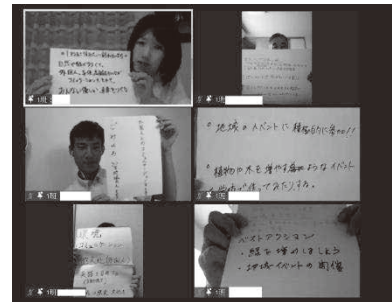
【未来像】

「自然や緑が多くて、外国人・子供・高齢者、みんながコミュニケーションをとれて、みんなに優しい未来をつくる」

【ベストアクション】

(グループでのまとめ) 外国人、子供、高齢者も参加できる地域のイベントをつくる!

- ・地域のイベントに積極的に参加。植物や木を増やすようなイベント。
- ・緑を増やしましょう。地域イベントの開催。
- ・外国人とのコミュニケーションをとる。
「ごみひろい」を地域の人と!
- ・「環境」「コミュニケーション」「多文化(外国人)」
→英語を習得する。
- ・ボランティア活動に参加。高齢者に対してはパン教室、料理教室。子どもに対しては昔のあそび、くらしを教える。
外国人に対しては外国語を学び外国語でコミュニケーションがとれるようにする。



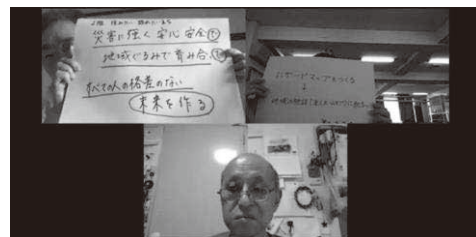
② 2班【テーマ：住みたい、訪れたいまち】

【未来像】

「災害に強く安心安全で、地域ぐるみで育み合って、すべての人の格差のない未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・ハザードマップを作る
→地域の施設(老人ホームなど)に配る



③ 3班【テーマ：住みたい、訪れたいまち】

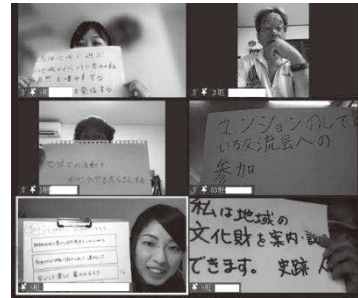
【未来像】

「阪神地域の豊かな自然環境をいかしながら、多世代が仲良く協力しあって進化して安心して楽しく暮らせるような未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・阪神地域で遊ぶ。地域のイベントに参加する。
自然を増やす守る。地域の良さを発信する。

- ・ 地域での活動やボランティアをたくさんする。
- ・ マンションのしている交流会への参加。
- ・ 私は地域の文化財を案内・説明できます。
- ・ 健康、長寿で若者に迷惑をかけない豊かな人生をおくる。



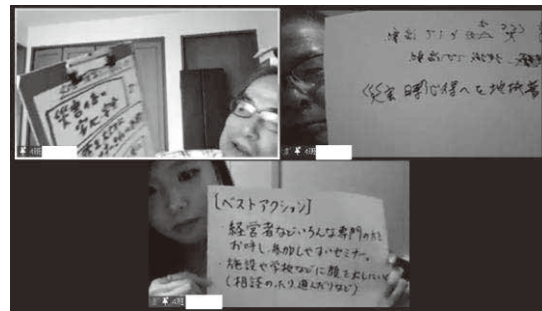
④ 4班【テーマ：住みたい、訪れたいまち】

【未来像】

「災害のない安心安全で、自然を大切に住みやすい、きれいな街で、老若男女が共に学びができるような未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・ 経営者などいろんな専門の方をお呼びし、参加しやすいセミナー。施設や学校などに顔を出しに行く。（相談のったり、遊んだりなど）
- ・ 災害時の心得を地域普及。



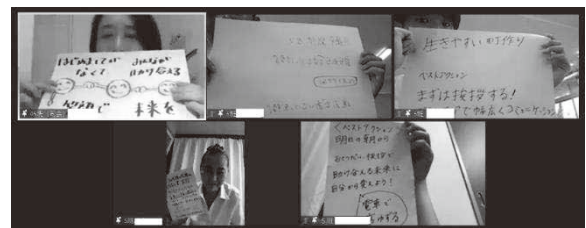
⑤ 5班【テーマ：子育て、まなび】

【未来像】

「はじめましてがなくて、みんなが助け合え、笑顔で楽しくいきる未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・ 年齢かんけいなく自分から話しかける。進んであいさつをする。
- ・ まずは挨拶する。ボランティアで幅広くコミュニケーション。
- ・ 明日の朝からおてつだい。挨拶で助け合える未来に自分から変えよう！（電車で席をゆずる）



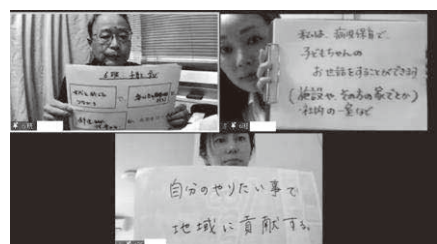
⑥ 6班【テーマ：子育て、まなび】

【未来像】

「世代を超えたつながりで、安心感のもてる創造性豊かな未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・ 私は病児保育で子どもちゃんのお世話をすることができます。（施設やその方の家、社内の一室などで）
- ・ 自分のやりたい事で地域に貢献する。



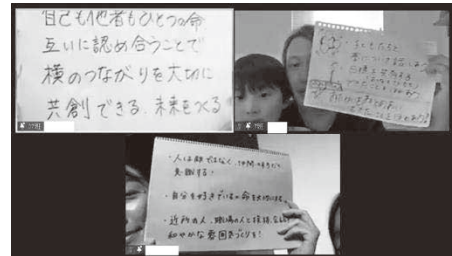
⑦ 7班【テーマ：子育て、まなび】

【未来像】

「自己も他者もひとつの命。互いに認め合うことで、横のつながりを大切に共創できる未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・子供たちと夢について話しあう。
目標を共有する（おとなも子どもも）。
おたがいをみとめあい、できたことをほめあう。
- ・人は敵ではなく仲間、味方だと意識する。
自分を好きでいる＝命を大切にする。
近所の人、職場の人と挨拶、会話で和やかな雰囲気づくりを！



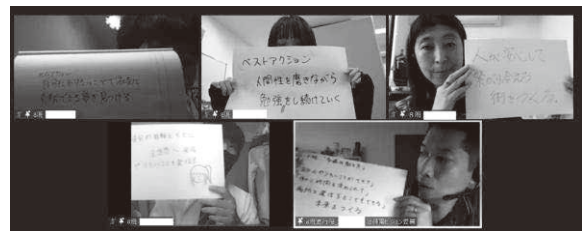
⑧ 8班【テーマ：多様な働き方】

【未来像】

「自分のやりたいことができ、働く時間を決められて、場所を選ばずどこでもできる未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・自分にやりたいことで、社会に貢献できる夢を見つける。
- ・人間性を磨きながら、勉強をし続けていく。
- ・人が安心して繋がり合える街をつくる。
- ・自分の経験をもとに全世界へ発信。
やりたいことも発信！



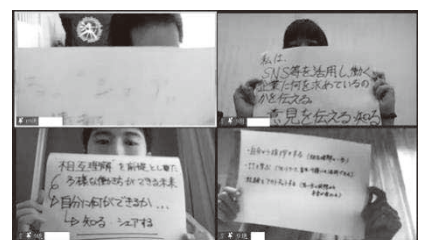
⑨ 9班【テーマ：多様な働き方】

【未来像】

「働くための環境整備と、働き方についての相互理解で、心身や生活状況に関わらない働き方ができる未来」

【ベストアクション】

- ・“知る” “シェア” 情報ツールの利用で意識改革と情報共有で働き方の幅を広げる！
- ・私はSNS等を活用し働く企業に何を求めているのかを伝える。意見を伝える・知る
- ・相互理解を前提とした多様な働き方のできる未来→自分に何ができるか…知る・シェアする。
- ・自分から挨拶をする。(相互理解の一步)
ITを学ぶ。(リモートワーク、育児、介護にも活用できる)
経験をアウトプットする。(暮らし方の感想から未来がかわる)



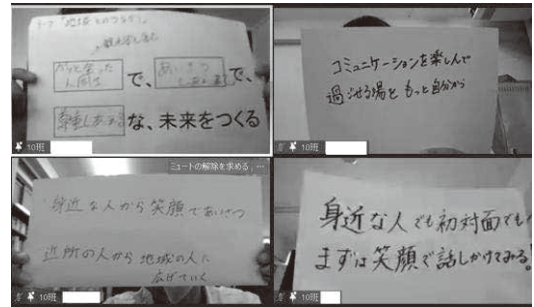
⑩10班【テーマ：地域とのつながり】

【未来像】

「パッと会った人同士（観光客も含む）であいさつしあえて、尊重しあえる未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・コミュニケーションを楽しんで過ごせる場を、もっと自分から！
- ・身近な人から笑顔であいさつ。近所の人から地域の人に広げていく。
- ・誰に対しても笑顔は欠かさない。（世界共通）
- ・身近な人でも、初対面でも、まずは笑顔で話しかけてみる。



⑪11班【テーマ：地域とのつながり】

【未来像】

「多世代で学び合い、交流し、格差がなく、若い力をネットのツールを通じ社会にいかせる未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・学校のイベントを地域の人と！
- ・地域の全ての世代が集える「祭り」の活性化に取り組む。
- ・高校生ボランティア団体として、多世代交流の場を企画する。
- ・地域の学校で「剪定法」「動画編集」「ゴルフ教室」「地域の昔話」。
- ・時代の変化に目を向ける。



⑫12班【テーマ：地域とのつながり】

【未来像】

「テクノロジーも使いながら、どこでも若者が集える、若者が中心となって活躍できるような未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・若者が前向きに地域活動（環境・防災）を発信し楽しく活動する。
- ・若者がアイデアを出し続けて、わかりやすい説明で防災意識を若者中心で高めていく。



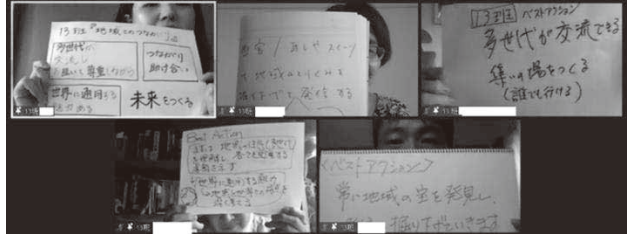
⑬13班【テーマ：地域とのつながり】

【未来像】

「多世代が交流し、お互いを尊重しながら、つながり、助け合い、世界に通用する魅力がある未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・西宮／あしやスイーツを、地域の取り組みを掘り下げて、世界に発信する。
- ・多世代が交流できる集いの場をつくる。
(誰でもいける)
- ・まずは地域の住民（多世代）を理解し、各々を尊重する姿勢を示す。
世界に通用する魅力→地域と世界の接点を深く考える。
- ・常に地域の宝を発見し、発信し掘り下げていきます。



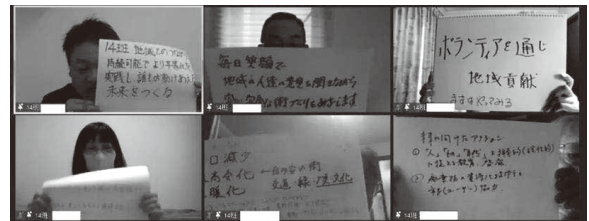
⑭14班【テーマ：地域とのつながり】

【未来像】

「持続可能で、より平等化を実践し、誰もが助けあえる未来をつくる」

【ベストアクション】

- ・ボランティアを通じ地域貢献。まずはやってみる！
- ・毎日笑顔で地域の人達の意見を聞きながら、安心安全な街づくりをめざします。(自治会活動)
- ・「人」「もの」「自然」を科学的（理性的）に捉える教育、啓発
廃棄物の資源化技術を市民（ユーザー）協力。
- ・障がい者、お年寄りが困っていれば助けるボランティアを通して地域貢献する。
- ・「人口減少、超高齢化、温暖化」
←住みやすい街、交通、緑、歴史、文化



<会場参加>

⑮A班【テーマ：住みたい、訪れたいまち】

【未来像】

「自然あふれる阪神で、子育てしやすく、関わりを大切にできる未来をつくる！」

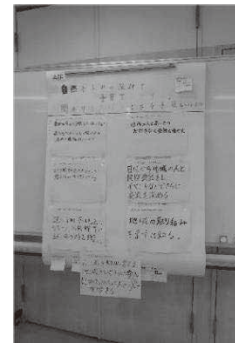
【ベストアクション】

- ・自分の周りの自然を大切にする。違う世代の人たちと関わる場所に積極的にいく。
- ・近所の人と、あいさつだけではなく会話を増やす。
- ・地域社会のかかわりを密になって行けるようにする。
- ・日頃から地域の人と挨拶・会話をし、イベントなどで



さらに交流を深める。

- ・週に1回各地でリモート、公民館等で話し合う時をもちたい。
- ・地域の取り組みをまずは知る。
- ・花木を大切に育てる。地域のイベントに参加する。
- 朝出会った人に大きい声で挨拶する。



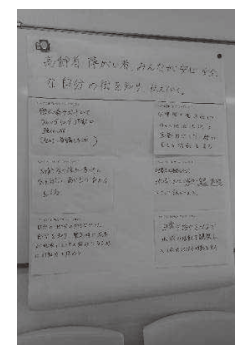
⑩B班 【テーマ：住みたい、訪れたいまち】

【未来像】

「高齢者、障がい者、みんなが安心安全な自分の街を知り、伝えていく」

【ベストアクション】

- ・障がい者サポートとしてオレンジリング活動を強化します。(セミナー受講しました)
- ・回覧板を電子化して、日々の地域状況を画面表示して顔が見える活動をする。
- ・高齢者や障がい者の方に気を配り、あいさつ、声がけをする。
- ・(世界文化遺産のような)地域の大切な場所、自然、動物について調べてみる。
- ・自分の地域の知らなかった部分を知り、緊急時に若者が地域にとっての強みになるよう行動力を強める。
- ・日常生活やSNSで地域の活動を観察し、人のためになる行動をする。



⑪C班 【テーマ：多様な働き方】

【未来像】

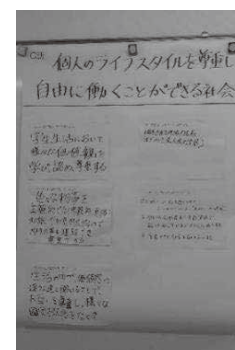
「個人のライフスタイルを尊重し、自由に働くことができる社会」

【ベストアクション】

- ・学生生活において様々な価値観を学び、認め、尊重する。
- ・相談できる地域の造成。(ボランティア、老人会の活用)
- ・色々な物事を主観的ではなく客観的に見る事で知識や知恵が広がるので相手の事も理解でき尊重できる。
- ・地域とつながりを感じられるコミュニケーションづくり。(オンライン/リアル両方)

学生から高齢者まで年齢関係なく能力を伸ばす仕事ができる応援をする副業できて自由な働き方をする。

- ・生活の中で価値観の違う人と関わることでお互いを尊重し様々な固定概念をなくす。



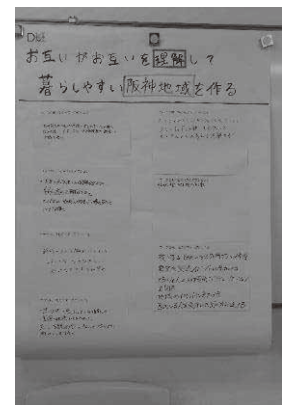
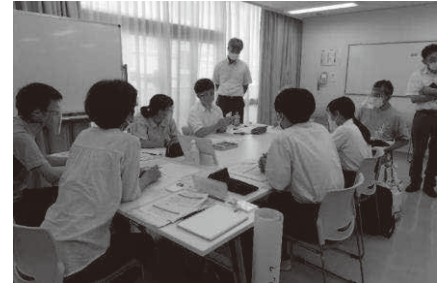
⑩D班 【テーマ：地域とのつながり】

【未来像】

「お互いがお互いを理解して、暮らしやすい阪神地域を作る」

【ベストアクション】

- ・ 阪神間の各地との交流によるお互いの理解の向上の為に、歴史、文化、地場産業を勉強して交流していく。
- ・ 人と人とのコミュニケーションを大切に、ボランティア活動にも参加して、たくさんの人の考えを理解する！
- ・ お互いがお互いを理解するために、自分の考えを発信する。そのために地域で発信する場所を設けることが必要。
- ・ 手をのばせば明るい未来が現存する。
- ・ 近所の人から、あいさつからコミュニケーションをとって助け合えるようにする。
- ・ 英語をはじめとする外国語の習得。異文化交流イベントに参加する。様々な人と。積極的にコミュニケーションを図る。地域イベントに参加する。困っている人を見かけたら声がけをする。
- ・ 世の中に出回っている情報の固定概念にとらわれず、互いを認め合い、互いが住みやすい町づくりをする。



(6) 講評

① 小西専門委員

「住みたい・訪れたいまち」がテーマの、1～4班、A班、B班に対して

- ・ 3市はすでに色々なアンケートで上位に入っているののでどのような答えが出てくるのか楽しみであった
- ・ 自然との共存・防災をどのようにやっていくのか？
* 地域が家族 * 多世代との交流 * 外国人とのコミュニケーション
といったようなハード面ではなくソフト面の意見が多かった。このような意見は他のテーマとも関わってくると思う。
- ・ 1960年（60年前）に高潮対策が計画され新聞記事にもなっていた。実際に高潮対策が実施されたが、今でも高潮被害や災害は起こっている（どうしても避けられない）。→地域とのつながりがやはり大事
- ・ 本日は話し合われた * 地域が家族 * 多世代との交流 * 外国人とのコミュニケーション等を30年先には是非実施してもらいたいと思う

② 久専門委員

「子育て、学び」がテーマの、5～7班に対して

- ・ 本日の話し合いの中では「子育て」というキーワードは入っていたので次世代を育てる学びが多かった。もう一つ大事なことは私たち大人がこれから生涯どのように学び続けていくのかがテーマ

だった。

- ・例として昔は鎌倉幕府成立は1192年と習ったが、今の高校生世代では1185年と習っている。だから知識はバージョンUPが必要であり、学び続ける事が大事！
- ・阪神間は一つ考えておかないといけないことがある。今まではサラリーマンの時代であり、サラリーマンの住む場所（住宅地）であった。今後働き方を変えていくなかで、地域がどう変わっていく必要があるのか？それを子供たちにどう伝えていくのか？も必要だと思う。
- ・マイケル・ムーア監督の映画の中で、アメリカから移住してきた先生の言葉で「私は子供たちにうそをついてきた。勉強すれば、努力をすれば、どんな仕事にでもつけると言ってきたがアメリカ社会ではうそ」という場面がある。私たちは未来に、子供たちが思い描いた生き方・暮らし方をしたいという意見があったが、それを受け入れてもらえるような社会を用意してあげないといけない。子ども達に託す前に私達がまずその道筋を作ってあげる必要がある。

③ 東専門委員

「多様な働き方」がテーマの、8～9班、C班に対して

- ・本日、様々な年代の方がITを使い対応しているのが素晴らしいと思った。どんな制約があっても働くことが可能じゃないか！関わることが可能じゃないか！と思いながら拝見させてもらった。
- ・多様な働き方というのは「新しい働く」をつくる、創造するという意味があるのではないかと聞いていた。
- ・NPO法人は23年経ってようやく浸透し当たり前になってきた。先日キッズニア甲子園という子どもの職業体験テーマパークに行ったら色々な業種・職業の中にゲームクリエイターというブースがあった。きっと働くということがこれから変わっていくのですね。是非高校生の皆さん新たな産業をつくってってもらいたいと思う。
- ・副業とか一定量の時間が確保できない皆さんがショートワークに関わる、企業に雇われるでもなく、雇うでもないもっと自由な働き方等を考えて頂けた。
- ・少し足りないと思ったのが、「阪神地域の特性を活かした」という事を考えるのがもしかしたら「多様な働き方」というテーマでは難しかったかなと思った。だからこそ新たな産業をこの阪神地域の特性を活かして考えてもらえたらと思った。

④ 三宅専門委員

「地域とのつながり」がテーマの、10～14班、D班に対して

- ・「まず行動」やってみる事の楽しさにどんどんつなげていくことを期待している。
- ・今回感じたことは「相互理解」「お互い」「あいさつ」といったような関係づくりに皆さんの視点移っている。15年間専門委員を担当しているが「物」から「ソフト」に向かっていると感じる。
- ・最近大事だなと思っていることは「学ぶ」ということ。「勉強する」ということと「学ぶ」ということは違う。学ぶということはお互いのことを理解する「お互いのことを知る」につながる。地域づくりもお互いに知る、学びあうは大切
- ・若い人たちがアットホームで、あたたかい人間的な提案をしてくれていることに、これからの地域社会を明るく感じた。

(7) 閉会の挨拶 阪神南県民センター長 正垣修志

- ・オンラインで議論がやりにくかったかもしれませんが、熱心に、積極的で、楽しそうに議論していただいて、ありがたく思いました。
- ・皆さまの意見については、しっかりビジョンに反映させていきたいと思えます。
- ・ベストアクションも考えていただきましたので、まずは行動という話もありましたので、明日から少しずつ取り組んでいっていただけたらと思います。

<オンライン集合写真>



<リードあしや会場風景>



阪神南北地域ビジョン委員会意見交換会

- 1 日 時 令和3年10月9日（土）13:30~16:00
- 2 場 所 オンライン（Zoom）、兵庫県宝塚総合庁舎 第2会議室（宝塚市旭町2丁目4-15）
- 3 出席者 54名（オンライン参加28名、会場参加26名）
〔 阪神南地域ビジョン委員25名、阪神北地域ビジョン委員21名 〕
〔 講師1名、阪神南県民センター3名、阪神北県民局4名 〕

4 内 容

新地域ビジョン案とその策定状況に対する理解を深め、新しい地域ビジョンをつくるため、他の委員と意見を交換しながら前向きな提案や活動案を考え、班ごと（オンライン6班、会場4班）に発表を行った。

（1）開会あいさつ

阪神南地域ビジョン委員会委員長 佐久間壮仁
阪神北地域ビジョン委員会副委員長 片山辰雄

（2）講師紹介

阪神新地域ビジョン検討委員会委員長、
兵庫県立大学自然・環境研究所教授 赤澤宏樹



（3）新地域ビジョン案説明ビデオ

（4）新地域ビジョン検討状況の説明 講師 赤澤宏樹

- ・最初のビジョン策定時は但馬地域ビジョンに、10年前の改訂時には阪神地域ビジョンに関わり、今は全県ビジョン、阪神地域ビジョンの委員として策定に関わっている。
- ・今は、時代が急激に変わる節目なので、新しい視点も入れようと阪神南北のビジョン委員長や専門的な知識を持つ委員で検討委員会を立ち上げて策定している。
- ・検討委員会を5回開催し、およそ案がそろったところである。これから数回の検討委員会を経て、魂を入れるという作業に入っていく。
- ・ビジョン活動を行っている皆さんに、教えていただきたいことが二つある。
 - ①地域を一番分かっているのは、そこに住んでいる皆さんということで、魂の部分である「阪神地域らしさ」について。
 - ②活動している中で、自分たちの活動だけではできないが、こんなことができるようになったら、新しい将来が見えるということ。
- ・自動運転などの新しい技術により店が遠くても買い物ができる。そうすれば更にこんなことも

できるとか、地域外や海外の方と新しいつながりができたら、こんな活動になるなど、阪神地域が変わるといことがあれば阪神地域の将来像に魂が入ると考えている。

(5)「新地域ビジョン案に対する疑問点の共有」について

① 1班

- ・南海トラフ等、防災についてもっと考えてもいいのではないか。
- ・進むIT化の中で、ZoomやLINEをビジョン委員会だけでなく、域の方に広げていけたらいい。
- ・阪神南北地区合わせて摂津の国と言われた経緯もあり、ひとくくりに考えて文化や歴史を知っていただくことで、まちを好きになるのではないか。
- ・少子化で人口減は仕方ないが、企業等を誘致することでまちがにぎわい、活性化すればいい。



② 2班

- ・「みんながつながるやさしいまち」の防災について、身近なところで防災体制が十分か。以前より自治体からの情報や訓練等で町内会でも意識が高まっているが、それで十分だろうか。阪神大震災を経験しているので、「公助」、「自助」とよく言われる。「共助」の一部かもしれないが「近助」というのがあってもいい。
- ・基本理念の「コ・クリエーションなまちの実現」の表現から、具体的なイメージがわくだろうか。「クリエーション」を「クリエイティブ」にしてはどうか。「クリエイティブ」という言葉は横文字ではあるが、定着している。検討してほしい。

③ 3班

- ・大阪、神戸のベットタウンになっていることから、受入れるまちである。一方で独自性や多くの歴史がある地域なので、阪神地域が発展した歴史の経緯をもっと踏まえることで新ビジョンの内容に阪神らしさが出てくるのではないか。昭和時代は都市部に人が集中していたが、阪神地域に住まいを移すことによってもっと人間らしい生活をしていこうという歴史的な経緯もあったと思う。
- ・2050年になっても今と同じような取り組みをしているか。和歌山で水道管の破裂事故があったが、AI等を使って斬新的な取り組みをしていけたらいい。
- ・尼崎に住んでいる人がまちのいいところをざっくばらんに話すことができるなど、それぞれ各地域の特徴を再発見していくのも面白いと思う。



④ 4班

- ・資料P10「住んでよし」の「誰もが自然に参加できる」を「誰もが自由に参加できる」に変更してはどうか。
- ・過去の風習に捉われているところがあるのではないか。ITをもっと取り入れて、地域ごとの特性をアピールしたまち自慢をつくるなど、ネットの活用を強化したほうがいい。

- ・兵庫県のホームページの宣伝告知力が弱いのではないかと。ハッシュタグの活用、今回のZoom会議の取り入れなどもあるが、まだITの面で弱いところがあるので、そこを強化する文言を追加したらいいと思う。
- ・ピクトグラムを取り入れて日本語が分からない外国人等への支援の強化なども取り入れてはどうか。



⑤ 5班

- ・地域ビジョンの内容は素晴らしいと思うが、広く知られていない。住民に伝わるような形にしないといけない。ビジョン委員活動にも言える部分だと思うが、もっと身近なものにしていく描き方が必要である。
- ・この地域の30年後は、もっと便利になっていると思う。尼崎は大阪に隣接しているが、東京や名古屋に隣接する地域とどう違うかという強みを出すと、阪神地域の良さが出るのではないかと。



⑥ 6班

- ・「コミュニティ」という言葉は具体的に何を指しているのか。
- ・大学生と高齢者がささいなことを共有し、同じ思いを持った者同士で活動をするなどのつながりを増やすことができればいい。
- ・先に仮想を描いて共感することができたら、現実と照らし合わせて課題や必要なことを発見できるロジカル展望を提案したい。
- ・私自身は西宮市民であるが尼崎や芦屋も知って関わりたいと思うので、市民だけではない市民の存在ということで、市民外にもフューチャーして活動ができたらいいと思う。



⑦ A班

- ・グローバルな視点から新しい時代に対応した阪神らしさとは何か、「共に」「創る」を目指すためにどうやって創造力を育てるのか、近隣とのつながり方をどう活かしていくかを考えていく必要がある。
- ・新地域ビジョンに過去、現在がどれだけ活かされ、どれが未来に組み入れられたか、住民に理解されるよう周知の方法を考える。
- ・個人を大切にすることと、社会生活をより良くするために必要な情報開示とのバランスをどう考えるか。
- ・地域ビジョン活動の具体策が伝わっていないのではないかと。
- ・防災、減災、安全、安心の高まりなど、抽象的な言葉を分かりやすい言葉で伝えてほしい。

⑧ B班

- ・高齢化が進み、自治会離れにより多世代交流の場が少ないのが問題である。

- ・便利すぎる情報化社会によって、人と人のつながりが希薄になり、他の人と関わりたくない、関わられたくない、対話がない、無言で済ませる社会になっているのではないかと。地域の活性化、地域で災害や火事があった時に大きなマイナス要因になるだろう。
- ・世代によって生活様式が違い、会話が成立しないところをどのように変えていけばいいのかが課題である。
- ・インフラの整備が進められる中で、地域活動で女性の参加を増やし、いろんな立場や役も担っていただいで、活躍していただく必要があるのではないかと。



⑨ C班

- ・スマートシティを推進するまち、超高齢化社会への対応、グローバル化への対応が必要である。
- ・博物館、ホールや施設を充実させ、子供や外国人、シニアを含む多世代がつながるよう、伸び伸びとした生き方を求め希望を持てる教育をする。
- ・防災訓練を行うなど、外国人と関係をもつ取り組みをする。
- ・地域の子どもたちとの交流は、学校から要請を受け下校時の見守りをするくらいで、日頃は公園内で見かける程度である。これから高齢化社会になり、子ども達と楽しく兵庫県内を散策できるような楽しみをつくっていただけたらと思う。
- ・地域の特性を生かした自然とまちづくりのため、いくつになっても人と人のつながりをもつ生き方をし、交流を掲げるではなくアクションしたい。



⑩ D班

- ・人口の減少と地域の温暖化、限界集落により山林原野の崩落等で自然災害が発生している。地域の活性化を図っていく必要がある。
- ・都会の方に農業体験をしていただく機会を作り、興味を持ってもらうことを進めていきたい。
- ・阪神間モダニズムの現状拡大を願う。
- ・文化向上のため、各市の方々と交流を図りたい。
- ・コロナ禍でのビジョン活動の進め方として、誰でもいつでも「ちょっと参加」「ちょっと手伝い」ができる多様で個性的なライフスタイルを育む土壌づくりを推進している。

(6) 質問に対する回答

(事務局)

- ・県民の皆様にはビジョンについて広く知られていないというご意見いただいたので、周知の方法を検討する。
- ・基本理念の「コ・クリエーションなまちの実現」の「クリエーション」を「クリエイティブ」にしてはどうかという意見について、「クリエイティブ」は「創造的」でつくり出すという意味だが、「コ・クリエーション」は、多様な方々と話し合い、お互いのことを理解しながら新しい関係をつくり出していくという、意味で進めている。意見を踏まえ検討する。

(講師 赤澤宏樹氏)

- ・資料P10「住んでよし」の「誰もが自然と参加できる」を「誰もが自由に参加できる」に変更してはどうかという提案に関して、もともと「自由に」だったところを「自然に」に変更したと記憶している。今住んでいる方の取り組みだけでなく、これから人口が減っていく中で人口が流動化し、若い方やお年召した方、外国の方も来るだろう、いろんな方々が初めて阪神地域に入るためのハードルが低く、魅力的な条件を整えようというニュアンスが強い。入ろうと思っている人は「自由に」入るという感じで、今回は更に全くコミュニティに入ろうと思ってないが、「自然と」コミュニティに入っていたみたいな積極的ではない方や入り方が分からない方でも、新たに阪神地域のコミュニティの仲間になっていただくというニュアンスを込めて「自然に」とした経緯があった。

(7)「新地域ビジョンの実現に向けた活動」について

① 6班

- ・外国人とコミュニケーションをとる機会に言語の障壁を埋めるシステムや手段の開発があればスムーズに意思疎通ができるのではないかな。
- ・できる時にできる人ができることを楽しみながら活動する。皆に合わせないといけないという事をやめて、自由な発想で個人が楽しくできるようなシステムづくりができればいい。
- ・最初からルールに縛られて考えるのではなく、つながりや自分の本当に理想の姿を映像やデジタルの仮想空間で表現して考えてみるのもいい。
- ・ビジョン委員でもズームやラインを使うようになり、情勢もデジタル化している中で、使いこなせない方がすごく多いのでオンラインコミュニケーション説明会や教える機会があれば、どんどん社会全体がデジタル化に進んでいくと感じる。



② 5班

- ・P14「市民の取組」の三つ目、「環境・場づくり」はビジョン委員の取り組みの中で重要である。
- ・外国人等の情報難民をなくすことが必要である。
- ・「市民の取組」の二つ目、「新規住民を受入れ支援をする意識と行動」の「住民」と「市民」の表現がよく分からない。

③ 4班

- ・ビジョン委員の活動をIT化し、兵庫県のいいところをPRしていくために、SNSができる人から発信する。
- ・市民とビジョン委員の交流が少ないので、県民センターの1階をオープンカフェにして、市民との話し合いの場にする。
- ・独居高齢の方の安否の確認方法として、市民と交流できる方法を作っていく。
- ・多様なコミュニティを作っている方もいるが、ビジョン委員自身でいろんな枠を超えたコミュニティをつくることで防災活動へもつなげることができる。
- ・情報難民の話があったが、誰もが地域の情報を得やすい環境を作っていく。

④ 3班

- ・ 阪神地域は人の出入りが激しいという背景がある中で、市民が入る場がないことには活動が難しい。
- ・ 誰が主体にするのか明確にしないと活動が進まない。自治会が重荷になって機能しないなど、リーダーシップを持った誰かが指揮をとらないことにはまわっていかない。まわし役が必要ではないか。
- ・ 参加の選択肢を増やし、完全オンラインや、行政だと副業人材など強みを生かして働くことを市民活動でも取り入れていくべきではないか。



⑤ 2班

- ・ 地域活動で活動の成果を何かにつなげたいとき、行政経由でアクションをとるのが普通だが、行政は縦割り組織で一つの話なのに複数の課に関係して進めにくい。
- ・ 自治会等と行政の間に介在して何らかの計画を進めるときに相談にのってくれるコミュニティプラザ的な組織を作っていければいい。具体的にはどうすればいいか難しい。
- ・ ビジョンの方向性の中で「自然、歴史、文化が息づくまち」の趣旨を踏まえた活動はできるし、それをアウトプットしやすい成果があればいい。ビジョン活動をもう一度振り返ってやれることはあるのではないか。

⑥ 1班

- ・ 一日一善が5年するといろいろな形でのつながりができて情報共有ができるのではないか。挨拶をするなど簡単なことでいい。
- ・ 自分のまちが好きになるアクションが必要である。
- ・ 自治会等地域の会議を仕切っている人が高齢でITについて学ぼうとする人もいるが、学ばない人もいる。意識改革が必要ではないかと思うが、永遠のテーマで具体的な方法は見つからない。
- ・ 学校、行政、自治会等が集まって話ができる場があればいい。つなげる場が、防犯、防災につながる。高齢者、障害者施設の施設見学等でも世代間交流が図れるのではないか。



⑦ D班

- ・ 「7市1町の175万人のいいね」を実現していきたい。
- ・ 都市部は公園や散歩ができる場所があまりない。多世代交流のため健康遊具や子供向け遊具を入れるというような形の整備が必要である。
- ・ 大学一帯となったコミュニティの実現のため、いつでも参加できる場所づくりを推進していきたい。
- ・ オンラインで地域の移住を拡大して、自然豊かな人生を送る。
- ・ JR北伊丹駅の駐輪場を3階建てにして、1階に地域の産直物産や地元のお土産を販売し、3階の一部を防災の避難場所にできるようにしたい。

⑧ C班

- ・地域のボランティア活動に積極的に参加して顔見知りになる。子どもに昔の遊びや暮らしや祭りを伝え、一緒に植樹やエコツアーを行い、外国人や高齢者等含めた多世代が参加できるイベントを実施する。
- ・体力を整えていくつになっても働く。働くというのは労働ではなく、働くという文字を分解すると人は動くである。働く人はみずから動ける体に、それが健康であればぼけ防止であり、きちんと対話ができるようにしたい。

⑨ B班

- ・スマホの普及で若者は人と付き合いたくないというような動きがあるが、この際高齢者の方から積極的に若者や小中高校生のところへ入って話した方ほうがいいのではないか。
- ・学校へ見守り隊として入ったり自分ができることを教えたりできる交流の場が必要である。
- ・祭りや行事で若者にテントを張るのに力を貸してもらうなど、大学高校と連携して積極的に進めたらどうか。ビジョン委員が情報を集めて、公民館、図書館など公的なセンターを利用して、積極的に交流の場づくりを行う。



⑩ A班

- ・近所と連帯感があり、市民が共に楽しめる身近な場づくりが必要である。
- ・子どもが子どもらしくある環境や自由にのびのびする環境がなく、いろんな制約がある。我々市民だけで限界がある。
- ・隣が何をしているか分からない、個人主義で触れたくないような感じになってきたが、地震や災害が起こった時に自治会は必要である。阪神大震災でもみんなボランティアを行った。隣人は非常に大切である。自治体の加入率が悪いが隣人と助け合うことから自治会が復活していくと思う。
- ・自分たちがやりやすい一番いい方法でやっていかないと長続きしないと思う。
- ・生涯学習で、大学を開放して自由に使えたらいい。少子化で1人が重要な役割を持つため大切に育てていかないといけない。教育は非常に大事である。

(8) 講師による講評

- ・お疲れさまでした。直接お話を伺うことができ非常に参考になった。皆さんがビジョンの実現に向けて、一緒にやっていると感じられるような新地域ビジョンにすることで心が引き締まった。
- ・できるだけ反映できるように努力していく。
- ・基本理念を「クリエイティブ」ということだが、「クリエイション」という言葉を「クリエイティブ」に直してもまだ分かりにくいかもしれないし、日本語の「共創」ということにしたら余計に新しい言葉になって分からないかもしれない。ただ、新しい言葉にしないと、新しい考え方が伝わらないということもあって、これから皆さんの意見をもとに「クリエイティブ」になるかもしれないし、日本語でもっと分かりやすい言葉になるかもしれない。これは悩み続けて最後の最後に一番のタイトルが決まるのではないかという気がする。

- ・ 阪神地域の特性に対して、ベッドタウンを受け入れた方がいいという話も出てきて、阪神地域には歴史文化があって、自然が豊かであることやこれまでの都市化が始まった経緯もあったという話があった。この阪神地域の特性の部分に書いたつもりでいるが、もともと何者にも変えがたい。おそらく未来将来にかけて変わらない価値として残っていきだろうというべき「自然」があって、その上にベッドタウン、コミュニティ、文化活動といった「社会」があって、その上に「経済活動」がある。その経済活動がおそらくコロナ禍によって変わってくると、大きな企業や工場が来るだけではなくて、小さな会社が来るとか、個人で起業するとか、大学生がスタートアップで新しい仕事をつくるということが住宅地でも自由にできる社会に変わるのではないか。そういう期待を持って、変わらない価値の上に社会が積み上がって経済活動があるという、それが阪神地域だからできるということが一目で分かるように、まとめ方も含めて検討していきたい。
- ・ シナリオの柱は大きくは四つあって、その下にいろんなテーマがぶら下がっている。おそらくそれぞれの特徴を出すために、一つ一つが独立して整理している。おそらく皆さんから、防災は書いてあるがもっとやったほうがいいとか、健康関連やコミュニティに関しては多くの意見が出た。書いてはいるけれども、多くの意見が出るということは、おそらくこの中のつながりが見えないと思う。防災にしても、阪神淡路大震災を経験した我々は日常のコミュニティ活動があったからこそ、助け合うことができるとか、健康だからこそ働けるみたいなことは、いきいき健康100年人生があるから、市民と地域と仕事が重なる暮らしができるとか、若くてもスタートアップができるとか、地域活動への参加できるとか、いろんなシナリオの間のつながりが非常に重要と感じる。全県ビジョンでは、この一つ一つのシナリオのつながりを線でつなげている。ただそれを見たら全部線がつながることになるから、阪神の新ビジョンではこういうふうに、すっきりと整理しているが、皆さんからのいろんなことがつながって阪神地域らしさや社会ができるのだろうという意見をいただいたような気がしている。改めていろんなシナリオが繋がってこそ、阪神地域ができるという表現の仕方を工夫したいと強く思った。
- ・ 皆さんからご指摘いただいて弱かったと思ったことがあって、一つは「住んでよし」になる前に住もうと選んでもらわないと「住んでよし」が始まらないという話があった。いつでも誰でも参加できる場づくりが必要だと、我々の活動の中ではそういったことを重視したいという意見も多くあった。これは非常に重要でシナリオのいろんなところに、ちりばめられていると考えたが、考えていた以上にシナリオを具体的に取り組むものとして前に出して、そこを広い入口にして、いろんなシナリオにいろんな人達が入ってこられるという人を誘導するような形だからこそ新しい価値が生まれるような、阪神地域になるためにはその入口を作るといこと、こうやって進めていったらこれが実現するかというふうな部分に変えていったらいいのではないかとすることを、皆さんの意見を聞いて強く感じた。
- ・ 検討委員会に持ち帰って、委員の方からの意見も聞きながらまとめてくが、非常に反映できる場所が多かったという気がしている。

